

# 余白が生む未来

「余白」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。時間や空間的なゆとり、心の余裕……日々忙しく、情報やコンテンツが向こうから飛び込んでくるような現代においては、余白をもつこと自体が難しくなっているように感じます。

本特集では、最初から作りこみ過ぎず、相手や流れに委ねることで生まれるものがあるのではないかと私たちは考え、余白の本質について探ってみました。単なる効率化ではなく、立ち止まったり、遠回りしたり、あえて無駄なことをしてみたり…「こうあるべき」を手放すことで、生徒の成長や将来にどんな影響があるのか。「何もない」をつくるのは、学校現場において最も難しいことかもしれません。無理をして余白をつくるのではなく、「こうあるべき」から一歩ひいてみる——本特集を通じて、何らかの余白を体感いただけたら幸いです。